

「さんべで科学教室 理科読」

1 趣 旨

- ・絵本にちなんだ実験を親子で行い、科学や読書活動に対する興味・関心を育む。
- ・理科関係本の読み語りや本の紹介、選び方を絵本専門士に紹介してもらう。
- ・ワークショップを通じて本に親しむ。
- ・親子で一緒に活動することにより、親子活動の楽しさを知る。
- ・体験活動に興味・関心をもつことで、以降も体験活動をしたいという意欲につなげる。

2 事業の概要

- (1) 期 間
令和4年11月19日(土)～20日(日) <1泊2日>
- (2) 会 場
国立三瓶青少年交流の家
- (3) 講 師
NPO法人ガリレオ工房理事 土井美香子氏
島根県立三瓶自然館サヒメル 矢田猛士氏
絵本専門士 鎌田由美氏、金築良枝氏
- (4) 後 援
島根県教育委員会 大田市教育委員会 美郷町教育委員会
- (5) 協 力
島根県立三瓶自然館サヒメル
- (6) 対 象
小学生とその家族(幼児も可)
- (7) 参加者
20家族67人(子ども37人 大人30人) 募集60人20家族程度
- (8) 日程・研修内容

11/19 (土)	13:30	14:00	14:30	17:00	19:00	21:00	22:30
	入 所	受 付	オリエンテーション 開会行事	理科読 絵本を絡めた実験・実演① ガリレオ工房 土井美香子先生 絵本専門士2人	夕食・入浴 休憩	理科読 絵本を絡めた実験・実演② ガリレオ工房 土井美香子先生 三瓶自然館スタッフ 絵本専門士2人	就寝準備

11/20 (日)	6:30	7:00	7:30	8:50	9:30	11:30	12:00
	起 床	宿泊室の清掃	朝食・休憩	退所点検	理科読 絵本を絡めた実験・実演③ ガリレオ工房 土井美香子先生 絵本専門士2人	閉会行事	解散

3 事業の特色

- (1) プログラムデザインと企画のポイント
 - ・家族の絆を深めるために、小学生の参加者分の工作・実験キットを配付した。このことにより自然に親子が協力する場面をつくり出すようにした。また、標準生活時間に沿った生活をする中で、「早寝早起き朝ごはん」国民運動をはじめとした基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行った。
 - ・身の回りの不思議に目を向け、絵本や本で調べたり実験したりする楽しさを体験してもらうことで、科学に対する興味関心につなげた。
 - ・1日目は、「この紙なあに」「紙のひみつ」をテーマに紙について学ぶ内容にした。1コマ目の「この紙なあに」では、紙は水を吸うか、紙で物が切れるか等の実験を行った。2コマ目の「紙のひ

みつ」では、様々な紙をちぎって、紙の表面の繊維をルーペで観察した。夜には紙を使って簡単な望遠鏡を作り、紙にはものを映す働きがあることも学習できるようにした。

- ・ 2日目の理科読3コマ目の「白菜から紙を作ろう」では、白菜を繊維状にして紙を作ることで、紙のつくりについて理解を深めることができるようにした。
- ・ 関連する本や絵本を近くに置いておくことにより、参加者が疑問に思ったことをいつでも調べることができるようにした。

(2) 運営（連携）のポイント

- ・ 今年度も引き続き、日本中の小学校や保育所などを回りながら理科読を広めているガリレオ工房理事の土井美香子氏と連携することができた。
- ・ 絵本専門士を招いて絵本を読み聞かせすることで、子供たちの興味・関心を高めることができた。
- ・ 隣接する島根県立三瓶自然館サヒメルから職員を派遣していただき、望遠鏡の作り方を直接聴くことで、プログラムに深みと広がり加わった。
- ・ 大田市の図書館に協力していただき、それぞれのテーマに沿った本を各50冊以上そろえることができた。

(3) 広報のポイント

- ・ 島根県の東部と中央部の小学校3、4年生にチラシを配布した。さらに、当所ホームページやFacebookに掲載し、広く募集することで、県外からの参加者も複数あった。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	65	35	0	0
プログラム	65	35	0	0
運営	70	25	0	0
職員の対応	85	15	0	0

(2) 参加者の声

- ・ 今回参加したことで、子供たちが理科に関心を持つことができ、よい体験ができました。
- ・ 先生方が作られる雰囲気の中で子供たちがのびのびと思考していてとてもうれしく感じました。
- ・ 白菜の紙づくりは子供たちと一緒に楽しめました。新たな発見がたくさんありました。

5 成果と課題

《成果》

- ・ 「子供たちが理科に関心を持つことができ、よい体験ができました。」というアンケート記述や参加者の当日の様子から、絵本や実験を通して、参加者の科学への興味・関心を引き出すことができた。
- ・ 集中して読み聞かせを聞いたり自ら絵本を読んだりするなどの子供たちの当日の様子から、絵本専門士を招き、専門家による読み聞かせを行うことで、子供たちの興味関心を深めることができた。
- ・ 島根県立三瓶自然館サヒメルや大田市の図書館と連携しながら事業を実施し、地域で理科読を実施するモデルを示すことができた。

《課題》

- ・ 細かいスケジュールを示して、子供たちが見通しをもって活動できるようにする。
- ・ 余裕のある時間設定にし、低学年の児童でも落ち着いて実験できるようにする。



(ガリレオ工房 土井氏によるお話) (いろいろな紙の性質を調べよう) (磁石を使った実験の様子)
(担当：企画指導専門職兼事業推進係長 其山 佳裕)